

平成30年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
畜産部門

養豚を核とする地域に根ざした高い生産性・収益性の循環型複合経営

○氏名又は名称 株式会社五十嵐ファーム (代表 五十嵐 一春)

○所在地 山形県鶴岡市

○出品財 経営(養豚)

○受賞理由

・地域の概要

鶴岡市は、日本海に面した庄内地域にあり、雪が深く冷涼な気候が特徴である。庄内地域の農業産出額は、米、野菜、畜産、果実の順である。養豚は山形県全体で約15万頭が飼育され、鶴岡市では27農場で約2.4万頭飼育されている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

五十嵐氏は昭和61年に就農し、平成11年には母豚100頭規模の生産体制を確立した。また、循環型農業システムを構築すべく、平成17年からアスパラガス栽培に取り組み、堆肥及び液肥の有効利用を進めた。多産系の種豚の導入とベンチマーキング事業に参加することで経営改善を行い、飼料用米等の自家配合により飼料コストの大幅削減を実現し、所得率は30%を超え、良好な経営状態となったことから、平成29年に法人化した。

・受賞者の特色

(1) 高い生産技術とそれを支えるベンチマーキングによる経営の可視化

平成25年から多産系の種豚の導入により、母豚1頭当たりの年間分娩回数2.49回、年間離乳頭数27.6頭、年間枝肉出荷重量2,160kgを達成するなど、飼養成績が向上した。また、自家配合施設で飼料用米等を利用し、飼料費を大幅に削減した。このような高い技術水準と高収益性は、ベンチマーキングの解析結果に基づき自身の経営を客観視し、経営改善に努めた結果と評価できる。

(2) 循環型農業の実践

五十嵐氏は循環型農業を志向し、養豚経営で発生する堆肥及び液肥をアスパラガス栽培、水稻栽培に有効に活用している。

(3) 地域社会への貢献

養豚で2名、アスパラガス栽培で13名を地域から雇用し、地域に雇用の場を創出している。また、生産された豚肉は、「あつみ豚」、「桜美豚」として、アスパラガスとともに地域食材として定着しており、観光振興にも貢献している。

・普及性と今後の発展方向

ベンチマーキングによる経営、技術の可視化と新規技術の積極的な導入など、高い生産性・収益性の養豚経営モデルとして普及性が高く、地域に根ざした循環型農業の展開は、複合化とともに地域の活性化に資するものと期待できる。